

職人だからこそ感じるシート職人の腕。
edirbはポルシェイズムそのものだ。

フェラーリや 20 台の BMW を乗り継ぎ
ポルシェの走りに目覚めた特殊建築職人 WY 氏。
愛車を走らせて楽しむためには
信頼が欠かせないと職人らしいこだわりがある。
その体験から選択した edirb。
それをどう評価したのか聞いてきた。

文：江戸小紋[Common Edo]
写真：島崎ミユキ [Shimazaki Miyuki]
取材協力：クレフ モータースポーツ
神奈川県横浜市都筑区池辺町4705
045-938-6809
<http://www.cref-ms.jp>

PORSCHE OWNER's IMPRESSION

ポルシェこそedirb

「フェラーリ、BMWと乗り継いできたけど、サーキットを含め本気で走ることを楽しむならポルシェだと思った。それで997GT3RSを購入したのだが、どうにも純正シートが馴染まない。身体が踊るように浮いてしまうんだ。そこで、BMW時代につちやエンジニアリングの土屋武士さんに勧められたBRIDEを装着したら走りに集中できるようになった」

20台以上のBMWに乗り継いできたWY氏がシートはBRIDEを使用していたという。「BRIDEというドリフトや国産車のイメージがあるけど、ちゃんと走りたいから、ちゃんとしたシートが欲しかったということだよ。シートが甘いと走りも甘くなる。しかも危ない。これはイメージの問題じゃなくて機能の問題なんだよ」

取材の冒頭から結論が出てしまうような意見をいただいてしまった。しかし、今回の取材車は997GT3RSではなく6連スロットルが装着された993カレラ。取材の王道として993選択の理由から聞き直すことにした。「993こそポルシェイズムの最後のクルマだと思う。水冷とは振動が違う。ゴリゴリ感というか機械が動いているなあと感じるんだ。これこそドイツという国が大切にし、ポルシェに集まったマイスターの技が動いていると感じるんだ。もちろん走っても楽しい」「しかし、シートだけはダメだ。だったら日本の匠の技が生きているシートとして、慣れたBRIDEのedirbにしたんだよ。BRIDEというブランドに抵抗があったポルシェ乗りたちも、これならいいんじゃないかと思う」

edirbの評価点

どう質問してもすぐにシートの話になってしまうのは、よほど感じたことがあったのだろう。そこで何を感じたのかを伺ったのだが、批判になるから記事に残したくないと配慮をいただいた。そのうえで、edirbの機能

的評価を伺った。

「サーキットだろうがどこだろうが、走るためには操作がいる。その操作のためには身体がクルマと一体になっていないとちゃんとできない。あるシートはブレーキングの時に身体が浮いてしまう。止まっている時はいいんだけど走る時はまったく違う。BRIDEもedirbも太腿が動かないしズレないからブレーキングでもコーナーでも身体を任せて大丈夫」「身体がずれて、腰の上や背中の下あたりにスペースがあると、ホールドは悪くなるし走っているうちにダルくなってくる。BRIDEもedirbも肩から背中、腰までびたっとして身体の芯が安定しているから疲れないしクルマの動きがよく分かる。ドライビング機能の基本ができていてシートだということだよ」「乗り降りを考慮してドア側のシェルを低くしているものもあるけど、この031のように包んでくれる方がいいと思う」

WY氏の評価は、そのままedirbの機能的なポイント。さすがに多くのクルマを乗り継ぎ、サーキットや湾岸／首都高を走り続けている人の意見は実体験に基づいている。「合成とはいえ革製のシートは汚れないし、高級感もある。ひと針づつ縫い込まれたステッチからも匠の技を感じる。まさに日本の技で作ったシートだね」

WY氏の本業は特殊建築を担う職人・技術集団。それだけに“造り”にこだわるのだろう。「ここまでフィットしたホールド感を作ることができるのは、欧米とは違う日本人の体格をよく知っているのだと思う」

いまやプロのレースのほとんどのマシンがBRIDE／edirbを採用しているのだが、レースに関わってきたからこそ、走ることを知っており、日本人の体型を知っているのだと言えよう。真面目に努力してきた職人だからこそ、真面目にシートを作る大変さや技術を知っているのだと思った。



ポルシェユーザーのシートインプレッション

edirb⁰³¹



体感